

情報化社会と グローバル化



教育随想

自然科学研究機構

分子科学研究所長 川合 眞紀 氏

人類は、これまでに世紀ごとに何度か深刻な感染症に襲われ、その度に何年もかけてこれと戦い、生き延びてきました。長年にわたる戦いを制するまでの間には、多くの尊い命が奪われてきました。COVID19という新しいコロナウイルスによる感染症に世界が気づいたのは、二〇二〇年の年が明ける頃でした。そして、驚くべきことに二〇二〇年が終わるまでに、コロナウイルスに對抗するワクチンが複数発明され、臨床実験を終えて一般への接種が始まりました。

二〇二二年五月現在、既にヨーロッパの一部の国や米国では、感染拡大を抑える目処がつかないと報道されるに至っております。遺伝子操作を伴う今回のワクチン開発には、生命科学分野の先端研究の成果が、縦横に生かされています。通常、基礎科学研究の成果が応用展開に発展するには長い年月がかかりますが、人類全体を脅かす今回のコロナウイルスに対して、官民を問わず一致団結して開発に臨んだ結果、驚くべき速度で実行力のあるワクチンが開発されました。ドイツの研究者とアメリカの製薬企業が開発したファイザー社のワクチンはその一例です。

国を超えて、セクターを超えての開発がここまで速やかに実施できたのは、オープンサイエンスとグローバルな情報交換がその背景にあると言われています。日本は後塵を拝しているのか、余りメディアで取り上げられてはいないようですが、これはグローバル化と素早い情報交換の成果なのです。国際化とは、国を超えて知識や経験を素早く共有し、力を合わせて人類の幸福のために尽力することを目標としているのです。

教育における国際化の目的も同様であるべきでしょう。近年の情報ツールの発達により国際化には拍車がかかり、これらを使いこなすことで世界とも容易につながることで



令和3年6月1日
6月号
発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

- 教育随想…………… 1
自然科学研究機構
分子科学研究所長 川合 眞紀 氏
- この人に聞く…………… 2
一般社団法人 奏林舎
代表 唐澤 晋平 氏
- 羅針盤…………… 2
岡崎小学校
校長 小田 昌男
- ふれあい…………… 3
竜南中学校
教諭 広瀬 悠
- 特集…………… 4
幼保小連携の取り組み
- お知らせ…………… 6
- フォト・ヒストリー…………… 8
開校祝賀運動会(昭和11年)
- この本を…………… 8

(かわい まき)





森から描く持続可能な社会

一般社団法人 奏林舎

代表 唐澤 晋平氏

持続可能な地域社会をつくりたいと考え、二〇一四年に岡崎市に移住。そのための手段として林業を選び、一般社団法人奏林舎を立ち上げた。山の手入れを主としながら、間伐材を利用した「みかわエコ薪」の販売を行ったり、市内の小中学校で森林環境教育を行ったりしている。また、山村の未来を考え、新たな木材流通の仕組みを作り上げ、額田産高品質木材の販売・普及に取り組んでいる。

— 岡崎で林業を始めるときは何かですか —

岡崎市は、全体の六割を森林が占めており、自然豊かな地域です。私も自身も幼いころ、山や川で遊んだことが多く、岡崎の自然は身近な存在

でした。環境教育機関で働いていたときに、里山が荒れ、立派な木が放置されたままになっていることをたくさん目にしてきました。山が荒れていることを逆にチャンスと捉えれば、山村に仕事を生み出し、持続可能な社会づくりへの一助になると考えたことです。

— 現場の作業で大変なことは —

一番は危険であることです。事故件数自体は、他の業種の方が多いです。ただし、事故発生率が、最も高いのは林業なのです。毎年四十人近い人が死亡事故に遭っています。次に、自然を相手にしていること

です。夏の暑さや冬の寒さに加え、風雨や雪などで作業がはかどらないこともあります。日々、自然相手の厳しさを痛感しながら作業を続けています。

— 間伐作業だけでなく、木材の販売にも関わっているのはなぜですか —

林業に関わり、知識を得てからは、日本の大型量販店で格安で売られている木材を見て、歯がゆく感じるようになりまし。販売競争に勝とうとする余り、経費を最大限に削減し、適正な価格を度外視した金額で販売をしていることが容易に想像できたからです。

今、私たちが伐ろうとしている木は、先人たちが残してくれた木です。何十年も前に重たい苗木を背負い、汗をかいて自分の足で山に登り、植えてくれた木です。その後も苗木

が育つまでの二、三年間は、ずっと草刈りが必要です。こうして今に残る木は、先人たちが後世の人たちのために繋いだ思いです。その思いへの対価が、山林所有者の元へ正しく届いてほしいと強く思いました。額田地域には、すでに製材工場や加工場などの設備は整っています。自分が得た経験から、森林資源と加工施設をうまく結びつけようと考えました。さらに、地元産の木材を商品化するコーデイナーとして活動すれば、森を育ててきた山林所有者に、少しでも対価を届けられると考え、商品の企画、製造、販売の段取りを行いました。

— 岡崎の子供たちに向けて、メッセージをお願いします —

商品を手にとった時。その手元に届くまでに、生産者が描いた物語を想像してください。その上で、価格だけではない基準で判断ができるように、社会に関心を広げてください。私は、先人たちの思いを受け継ぎ、山村を守り、木を後世に残します。みなさんも、持続可能な社会の実現に向けて、自分にできることから始めてみてください。



氏名 からさわ しんへい
生年月日 昭和六十年
一月一日
住所 岡崎市千万町

学校体育について考える

岡崎小学校

校長 小田 昌男



私たちは、新型コロナウイルス感染症拡大に直面したことで新たな体育の在り方を探ることになった。三密（密閉・密集・密接）を避けたソーシャルディスタンスの確保、声出しや共有物の制限、活動人数や活動時間の考慮などである。本年度、スポーツ庁よりコロナ禍における体育・保健体育の授業における基本的な感染症対策を踏まえた指導の工夫例が動画資料としてホームページに掲載された。大いに指導の参考となる。

小中学生の運動経験、運動に対する思いは、その後の運動への関わり方を大きく左右する。この時期に様々な運動に挑戦し、バランスよく取り組むことは、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフの実現を目指すうえでとても重要になってくる。



本音を伝えあう「学級会議」

竜南中学校

教諭 広瀬 悠

初めての中学校勤務で担任した一年生。学級は「対話をもとに、全員でつくり上げるもの」だと、私は彼らに気付かせたいと考えた。そこで学級づくりの一環として、学級会議を重視した。

「給食時のルール」をテーマに開いた最初の会議では、数多くの意見が出された。しかし、自分の考えを他に押し付けるようなものばかりで、本音で語り合えるどころか、対話と言えないようなものにはならなかった。私は、不満や心配なことがあったら、しっかりとみんなに伝えること、そして、自分と異なる意見にも耳を傾け、歩み寄る方法をみんなまで考えていくことこそが大切だと訴え、その会を閉じた。

体育大会の行進練習について開い

た会議。そこでは、毎朝早く登校して練習をするという一部生徒の意見が採用されそうになっていた。「自分だったら、さすがに毎日苦しいなあ。」私が発した言葉に戸惑いを感じながらも、司会の生徒が、「朝の苦手な人は手を挙げてください。」と呼び掛けた。すると、自分の考えをきちんともってはいるものの、進んで意見を言うことは少ないAさんを含む数人の生徒が、申し訳なさそうに手を挙げ、その意見も取り上げながら議論が継続された。

その結果、「練習は週に三回とし、集中して取り組む」と決まった。回数は減ったものの、全員の合意で決められた練習は実りあるものとなった。そして、これを境に学級会議は全員が本音を伝え合う場へと、少しずつ変わり始めた。

合唱コンクール前、練習の仕方についての会議では、「声が全然出ていない。」「もっと音取りをしっかりしてほしい。」など厳しい言葉が飛び交った。

その中でAさんが挙手をして、こう発言した。「僕は歌うことが苦手だけど、自分なりに頑張っている。」その一つの発言が、よい成績を収めることに執着していた学級の雰囲気

を一変させた。さらには、一人一人が素直に思いを伝え合い、自分たちのハーモニーを作り上げることが大切だと気付かせてくれた。本音で語った言葉のもつ重みを実感した瞬間であった。そして優秀賞という結果以上に、学級に大きな影響を与える出来事となった。

学級の解散に当たって、生徒にもらった寄せ書き。そこには「この学級で楽しく過ごせました。」というAさんの短い言葉が綴られていた。「安心して自分の思いを伝えられる学級」「様々な思いを受容できる学級」、その大切さを、再認識することができた。



本校における体育実践を振り返ると、子供たちにとって魅力ある授業を展開するには、次の二つの手立てが有効であることが見えてきた。

一つ目は、学びをより深いものにするためのICT機器の活用である。タブレット端末やDVD等の教育用コンテンツを使うことで、動きの修正点を視覚的に捉え、明確なめあてをもって活動することができ、情報を収集したり、共有したりすることで、互いの思考が広がり、対話的な学びへと発展していく。

もう一つは、場づくりの工夫である。子供たちに達成感や満足感を味わわせるには、その子なりに今もっている能力で、それぞれの運動も個性にふれる喜びを体感させることが大切だと考える。そのためには、個に応じた段階的な場、運動量が確保でき、活動意欲をかき立てる多様な場の設定が必要となる。

本年度で小中学校ともに新学習指導要領が全面实施となる。主体的・協働的な学習課程の在り方や、思考・判断に表現を加えた評価の在り方等が着目されている。中でも今のコロナ禍においては、子供たちの運動への関わり方、すなわち学びに向かう力が重要だと感じている。

幼保小連携の取り組み

～子供たちの健やかな育ちと学びをつなぐために～



▲保育園訪問での手遊び活動（宮崎保・宮崎小）

岡崎市幼保小連絡協議会

「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」

- (1) 健康な心と体
- (2) 自立心
- (3) 協同性
- (4) 道徳性・規範意識の芽生え
- (5) 社会生活との関わり
- (6) 思考力の芽生え
- (7) 自然との関わり・生命尊重
- (8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
- (9) 言葉による伝え合い
- (10) 豊かな感性と表現



▲全体研修：パネルディスカッション



▲連携ミーティング：グループ協議会

幼保小の連携



5歳児のどろんこ遊びを参観させてもらいました。園児がみな遊びに集中していること、保育士の言葉がけで発想を広げていることに驚きました。このように遊びを通して成長していることが感じ取れました。こうした育ちが小学校での学びにつながるようにすることが大切です。（1年生担任の声）
『幼保小の連携』より抜粋

※令和元年度の様子

▲研修のまとめ『幼保小の連携』

現在、幼児教育から小学校教育への円滑な接続が叫ばれ、新学習指導要領においても幼稚園・保育園（認定こども園）及び小学校の計画的な連携が求められている。岡崎市では平成十八年度より幼保小連絡協議会が設置された。園と小学校の垣根を超えた情報交換会や協議会、最新の知見の研修会などを行い、幼保小の連携に向けた教職員の力量向上を図り、市全体で互いの連携が組織的・協力的にできるようにしている。

幼稚園、保育園、認定こども園では、就学への期待を高め、就学後のイメージを具体的なものとして捉えられるよう、近隣の小学校との交流活動を積極的に展開している。小学校では、幼児期の育ちを児童期の学びへ効果的に育んでいけるように、生活科を中心として交流活動を位置付けた年間計画を作成している。また、一年生の四月には、就学したばかりの児童の実態に応じた柔軟な学校生活の工夫を行っている。

幼児期教育から小学校教育までの子供の連続した育ちと学びを支えるには、新学習指導要領に示めされた「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を手掛かりとした教師間の一層の連携が必要である。それらを踏まえ、継続的かつ目的を明確にした交流活動の創造が今後も期待される。

園児と児童の交流活動

◇就学への期待を高める



▲小学校の授業見学（山中保・山中小）

◇小学校の行事や活動を具体的に知る



▲歌の発表の参観（豊富保・豊富小・夏山小）

◇生活科の授業の中での交流活動



▲一緒に育てたサツマイモの収穫
（るんびに一保・愛宕小）



▲1年生体験（藤川保・藤川小）



▲マラソン大会の応援
（六ツ美南保・六ツ美南部小）

年長さんにおもちゃのつくりかたをやさしくおしえてあげたよ。つくったおもちゃであそばせてあげたらおもしろいっていいんだよ。また学校でなかよくあそびたいな。
（1年生児童の声）



▲小学校での遊具遊び（城北保・連尺小）

小学校での交流活動は、年長児の就学への不安な気持ちを期待に変えてくれます。交流後の自主的な行動や前向きな言葉から、体験の大切さを感じています。交流したあとには、小学校のことを楽しみにしている言葉が多く聞かれます。
（男川保育園の保育士の声）



▲生活科「秋と遊ぼう」交流会
（かおる幼・常磐保・常磐東小）

入学直後の負担を減らす活動の工夫



▲手遊びや歌



▲6年生との交流】

小学校に入学してきたばかりの子供たちは、これから学校生活への期待と、初めてのことに對する不安で胸がいっぱいだと思います。そうした不安を、少しでも和らげられるように、6年生の子供たちが、朝の時間に、読み聞かせをしてくれたり、放課と一緒に遊んでくれたりしています。そうした活動が1年生の子供たちの安心感につながっています。（1年生担任の声）



▲生活科を中心とした
合科的な学習の実施

教職員の交流会



▲小学校教諭による集団遊びの保育参観
（百々保・近隣小）



▲入学後に情報交換を図る教職員交流
（竹の子幼にて）



●令和三年度の研究発表表

本年度の研究発表表は、市委嘱の発表校が三校、自主発表校が二校である。

- 市委嘱研究発表校
- ・羽根小学校(全教科)

「プログラミン格的思考育成からはじめ創造的に学ぶ子の育成」主体的・対話的なプログラミング学習を通じた新しい学びの実現」

- ・翔南中学校(全教科)

「未来をたくましく生きる力を育む教育の創造」仲間と学ぶSOZOの時間を核に据えて」

- ・広幡小学校(全教科)

「『自らの意思で』発見・判断・実行できるスーパーソサエティキッズの育成」一人一人の子供が主体的に学び、深め、広げていく学習指導の在り方」

- 自主研究発表
- ・竜海中学校(全教科)

「第十二次研究(三年次)自ら学

び続ける生徒の育成」「読む」「書く」の充実を図り、「わかる」の実感を強める学習指導を中心に」

- 十一月十二日(金)
- ・矢作東小学校(国語科)

「国語力向上をめざす授業の構築」論理的文章を読むことから活用することへと展開する授業」

- 十一月二十六日(金)
- ・愛知教育大学附属岡崎中学校

- 九月二十八日(火)
- ・愛知教育大学附属特別支援学校

- 十一月五日(金)
- ・愛知教育大学附属岡崎小学校

- 十一月十八日(木)
- ・その他

東海地方数学会第六十八回研究(愛知)大会(市内関係校)

- 十一月九日(火)
- ・六名小学校
- ・竜美丘小学校
- ・城南小学校
- ・竜海中学校

●表彰

◆第二十八回愛知県ウォーカー・アンサンブルコンテスト

- 〈中学校部門〉
- 【金賞】竜海中
- 六ツ美北中

●小中学校のようす

令和三年度岡崎市内の小中学校の概要(五月一日現在)である。昨年度と比較すると、一校当たりの児童・生徒数の平均は、小学校が五名の減少で、中学校が五名の増加となった。通常学級数は、小学校は四学級増加、中学校に増減はなく昨年度と同数である。特別支援学級数は、小学校が九学級、中学校が十一学級増加している。

岡崎市内の小中学校の全児童数は、二四六名減少し、中学校の全生徒数は、一〇八名増加した。総数では、一三八名の減少となった。教員数は、二十九名の増加となった。再任用教諭は一〇九名(実数)である。教員補助者は二名の減少で、二七一名である。そのうち二十一名は、養護教諭支援員である。小学校英語指導補助者(ST)は二十五名、外国語指導助手(ALT)は、三十二名である。



●学年別児童・生徒数(人)(令和3年度5月1日現在)

学年	小学校						中学校		
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年
男	1,838	1,849	1,899	1,897	1,967	1,991	1,866	1,905	1,881
女	1,679	1,749	1,814	1,855	1,837	1,792	1,758	1,699	1,770
計	3,517	3,598	3,713	3,752	3,804	3,783	3,624	3,604	3,651

●学校・学級の規模(市内平均)

	小学校	中学校
1校当たり児童・生徒数	472人	544人
通常学級数	714学級	308学級
特別支援学級数	169学級	68学級

●児童・生徒・教職員数(人)(令和3年度5月1日現在)

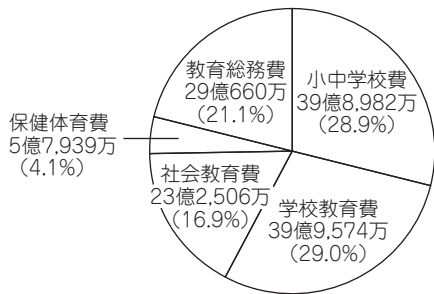
区分	学校数	学級数 (内特別支援)	児童・生徒(人)			校長・教頭・教諭(人) ※再任用教諭・臨時的任用講師(欠員補充)を含む ※養護教諭を含まない	養護教諭・職員(人)	事務職員(人)	養護教諭(人)
			男	女	計				
小学校	47	883 (169)	11,441	10,726	22,167	1,156	8	58	50
中学校	20	376 (68)	5,652	5,227	10,879	668	4	28	23
合計	67	1,259 (237)	17,093	15,953	33,046	1,824	12	86	73

(再任用ハーフは0.5カウント)

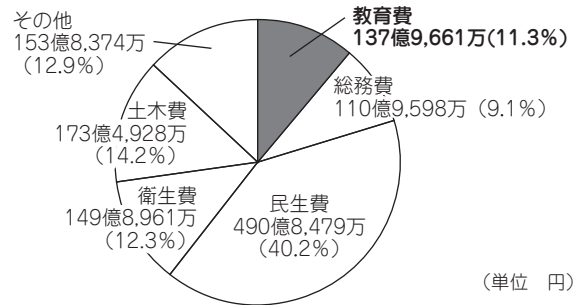
令和3年度 岡崎市の教育予算

暮らしと健康を守り、持続可能なまちづくりを推進する予算

〈教育費の内訳〉 令和3年度 137億9,661万



〈一般会計予算〉 令和3年度 1,221億



(単位 円)

◆ 令和3年度 主な拡充事業

【拡充事業】

○校内フリースクール (F組) を8校へ拡充

- …甲山中、美川中、福岡中、東海中、岩津中、矢作中、北中、六ツ美北中
- ☆生徒の多様性への対応による長期欠席の未然防止
- ☆教室復帰だけでなく、社会的な自立を目指した支援の充実
- ☆校内フリースクール利用生徒の自己肯定感や自尊感情の向上
- ☆個々の学習状況に応じた指導や配慮の充実

○hyper-QUの実施方法の変更と内容の充実

- <WEB-QUの導入と年2回の実施へ>
- ☆WEBでの実施による結果反映までの高速化
- ☆コスト削減による年1回から2回の実施
- <検査対象を小学4年生まで拡充>
- ☆よりの確に児童の状況を把握するため、発達の個人差に気付き、人間関係の構築に変化が見られる小学4年生まで拡充

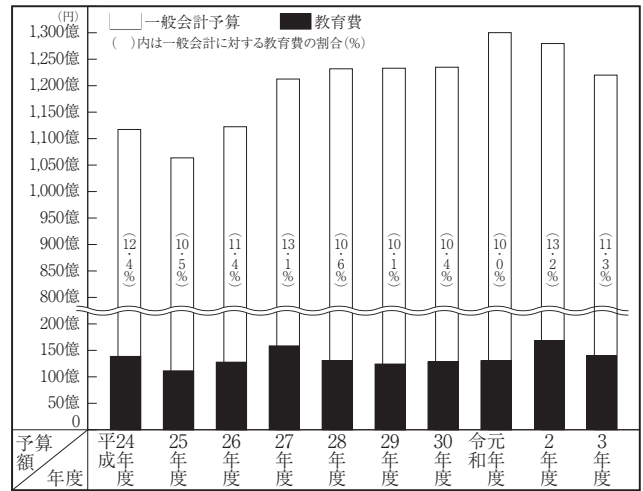
○水泳授業支援 (モデル校2校…愛宕小、新香山中)

- ☆学校のプールで実施している水泳の授業を、民間のスイミングスクール施設で実施
- ☆児童生徒の水泳技能の向上
- ☆教職員の負担軽減及び施設の維持管理費の削減を図り、より安全で快適な授業環境を整える
- <モデル授業の概要>
- ・原則2クラスを1グループとする
- ・1グループあたり授業2コマ分を1回とし、年間5回実施(10時間程度)
- 小学校：計15回、中学校：計40回
- ・指導体制(1グループあたり)
- 小学校：教師2名、インストラクター4名、監視員2名
- 中学校：教師2名、インストラクター2名、監視員2名
- ・移動にはスクール所有のバス、またはスクールから委託されたバス会社のバスを利用

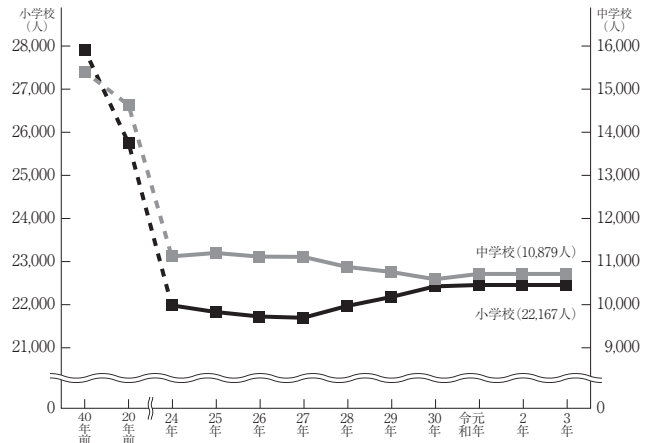
○市内小中学校における30人学級実施検討会議の開催

- <会議の目的>
- ☆ウィズコロナ、ポストコロナ時代の「新しい生活様式」に即した、望ましい学級集団の姿の模索
- ☆「個別最適化された学び」の実現に向け、1学級における望ましい児童生徒数の検討
- <主な検討課題>
- ・1学級の望ましい児童生徒数
- ・教員の安定的な確保
- ・教室等の施設・備品
- ・必要となる予算の確保

◆ 一般会計予算と教育費の推移



◆ 児童・生徒の推移 (数字は毎年5月1日現在)



教職員の相談窓口

【対象】 全教職員 【相談内容】 ・勤務のこと・家庭のこと・心や体のこと 等

番号	相談窓口	電話番号	相談受付日時
1	岡崎市教職員相談ダイヤル	0564-64-3322	火曜日～金曜日 12:00～19:00 土曜日 12:00～16:30
2	岡崎市こころのホットライン	0564-64-7830	平日 13:00～20:00
3	愛知県総合教育センター教育相談	0561-38-2217	月曜日～金曜日 9:00～17:00
4	あいちこころのホットライン 365	052-951-2881	年中無休 9:00～16:30
5	名古屋いのちの電話	052-931-4343	年中無休 24時間

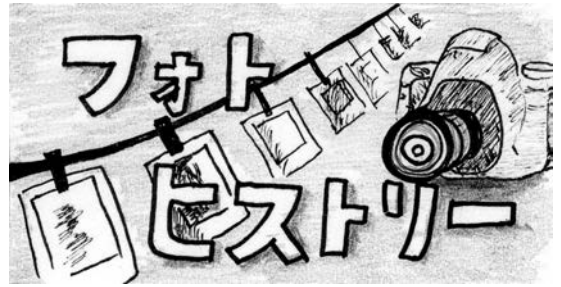
・カ
ツ
ト

六ツ美中部小
青
山
未
由
記

開校祝賀運動会 (昭和11年)

写真提供：六名小学校

本校は、昭和十一年、六名尋常小学校として開校した。新しい学校の誕生で地域全体が歓喜に沸き、開校祝賀展覧会と運動会を、二日間にわたって開催した。写真は、運動会で踊る子供たちを学区総出で見守る様子である。時は経ち、昨年度には本校独自の演舞「六名の舞」を初めて披露した。伝統を重んじ、その上に新たな文化を築きあげたのである。学校は、地域に見守られ、支えられ、伝統を受け継ぎながら新しい文化を創造する。今もなお岡崎の教育に脈々と受け継がれている大切な原風景である。



本音をぶつけ合う学級会議。そこには対立を恐れず、議論によって課題を解決しようとする子供たちの真摯な学びの姿が見える。多様な考えを認め合い、対話により合意形成を図る。これからの社会に必要な力を育もうとする確かな実践に、岡崎の明るい未来が見える。

「とにかくやるしかない状態でした。続けていけるか不安でした」山の仕事を始めたころを振り返る唐澤さん。その着実な歩みは実を結び、持続可能な森林管理として確立される。

コロナ禍での教育も同じである。教師が子供たちと共に、歩みを止めない限り、不安は必ず希望に変わるはずである。

と ホ

水無目



▲学校探検(六名小)

梅雨を彩る紫陽花が土壌の状態によって変化するように、学級を彩る子供たちもまた、環境や教師の支援により、個性を伸ばし、自分色の花を咲かせる。

令和三年度がスタートして二か月。担任と子供たちが作り上げる学級は、この先どのような花を咲かせるのか期待に胸が膨らむ。



*AIに負けない子どもを育てる 新井 紀子
東洋経済新報社 ¥1,600

心に残った一文
「読める」とは何だろう。

「読解力」はAIの苦手分野であり、そこに人間の価値があると言われた。しかし多くの子供にとっても、教科書を正しく読む「読解力」は身に付いていなかった。

本書は「AI vs 教科書が読めない子どもたち」の続編であり、著者の教育に対する真摯な思いが伝わってくる。RST(リーディング・スキル・テスト)と呼ばれる読解力判定の問題例や読解力を培う授業案まで示して、教育現場が今なすべきこと、目指す方向性を訴える。「読解力」は、すべての学習の土台であることを、あらためて確認した。

- *家康、江戸を建てる 門井 慶喜
祥伝社文庫 ¥948
- *深い学び 田村 学
東洋館出版社 ¥1,980
- *ポスト・コロナショックの授業づくり 奈須 正裕
図書文化 ¥2,000
- 豊富小 倉地 耕治